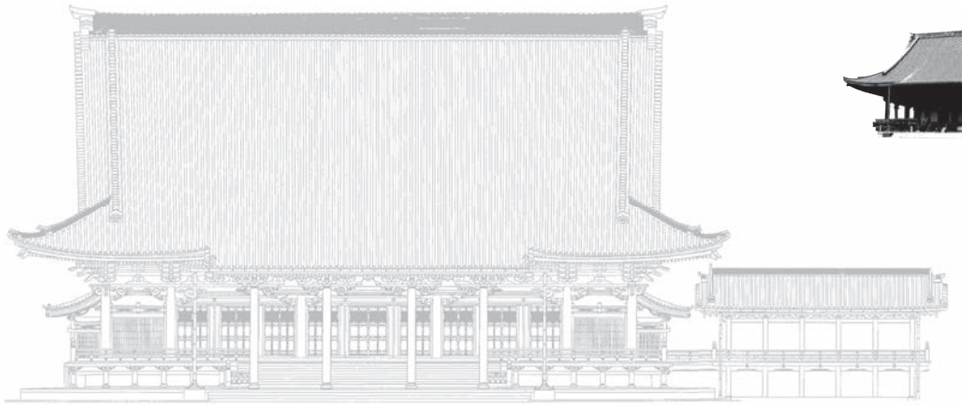
御修復のあゆみ ～伝承された先達の願い～

御影堂と阿弥陀堂の彫刻



真宗本廟の御影堂や阿弥陀堂をはじめとして、門や各諸殿の建物には、繊細な彫刻が数多く存在します。特に、御影堂や阿弥陀堂の彫刻は大建築でありながらも誇張的なものではなく、控えめで上品に仕上げられています。また、非常に硬い木材であるけやきを籠のように内部を透かし立体的に彫り上げる「籠彫（かごぼり）」で仕上げられた精緻な彫刻などが多数施されています。

御影堂に施されている彫刻のモチーフは、実在の動植物に加え、獏や龍などの架空の動物、中国の仙人、雲や波といった自然物、そして迦陵頻伽の彫刻などがあります。そしてこれらは、中央から左右に対応して対になるような伝統的な配置法が用いられていました。

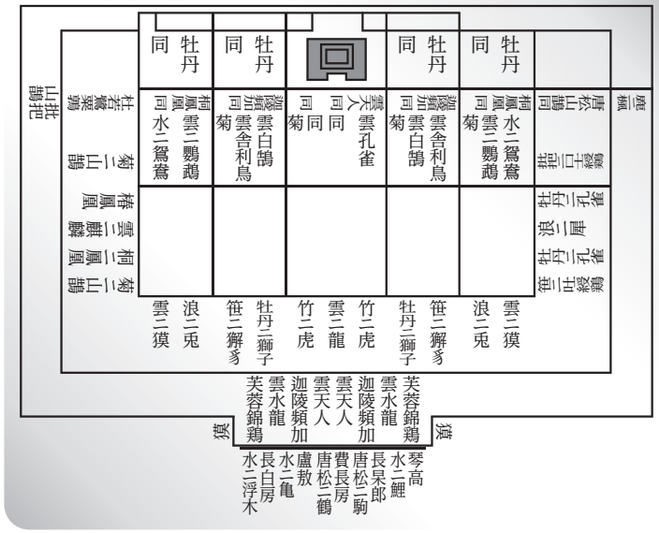
御影堂の彫刻（迦陵頻伽）

一方、阿弥陀堂の彫刻のモチーフは、植物が圧倒的に多く、実在する花や草木が用いられています。動物は、十二支と雉（きじ）や鳩（かわせみ）など実在する鳥などの意匠があり、向拝廻りに龍と虎、広縁周りに十支、その広縁脇の障子周りに鳥が配置されています。なお、十二支を彫刻として用いる多宝塔や五重塔は、一般的にそれぞれの方位にあわせて配置されるようことが多いのですが、阿弥陀堂の場合は、これにこだわらず自由に彫刻物が配置されていることが特徴のひとつです。また、いずれの彫刻も極めて写実的で自然な動きがあることも特徴の一つといえます。

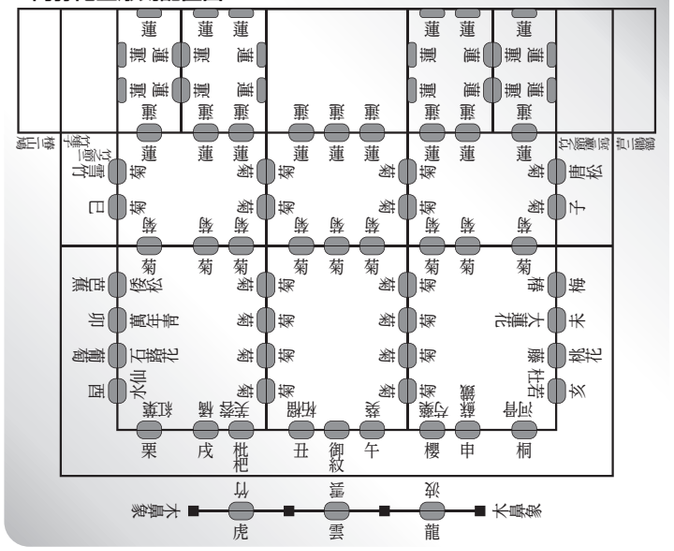
阿弥陀堂の彫刻（巳（へび））

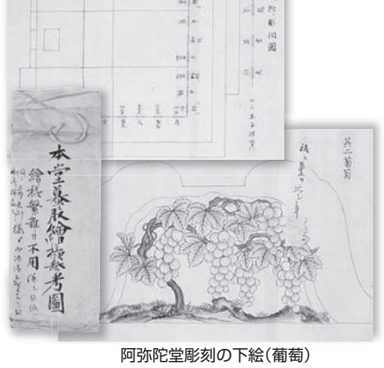
明治度の再建の折り、これらの彫刻にあたって、御影堂では十四名の彫刻師がこれを手がけ、阿弥陀堂では三名の名前が記録（『本山寺誌』明治二十八年）に残されています。特に九山、早瀬、松井などの苗字が多く、各家の彫師が親子兄弟などと親族で参画していたことがうかがえます。また、最も多くの箇所を担当した田村理七は井波彫刻の名工であったとされますし、早瀬長兵衛は伊藤平左衛門（御影堂再建棟梁）の門下で尾張藩の御用彫師としても名高く、その一門も大きく関わっていることからは、多くの名工が腕を揮（ふる）ったことがわかります。

御影堂彫刻配置図



阿弥陀堂彫刻配置図





阿弥陀堂彫刻の下絵（葡萄）

御影堂彫刻師一覧

箇所	部位	氏名
向拝	獏鼻	九山新太郎
	手挟	早瀬長兵衛
		九山安治郎
	蟇股	松井乗慶
		早瀬右内
		九山安太郎
		田村理七
唐戸側	蟇股	早瀬岩吉
		九山安太郎
		田村理七
		田村與八郎
		早瀬長兵衛
		九山新太郎
		田村理七
広縁	竹之節欄間	田村理七
		早瀬恒弥
障子側	蟇股	早瀬仲造
		早瀬長兵衛
	唐(格)狭間	早瀬錠太郎
		田中文弥
両妻		曽根徳兵衛
		神谷清三郎
獏		九山新太郎

阿弥陀堂彫刻師一覧

箇所	部位	氏名
向拝	木鼻	田村理七
	極(手)挟	田村理七
	蟇股	松井乗運斎
		田村理七
唐戸側	蟇股(彫刻)	松井乗運斎
	蟇股(太平束笈型)	田村理七
広縁	竹之節欄間	田村理七
金障子側	蟇股	田村理七
	唐狭間	早瀬長四郎
両妻	大蟇股	田村理七
広縁	組物上隅	田村理七

参考文献：『本山寺誌』（明治28年）